

平成30年度

社会福祉法人緑友会 事業報告

- I 法人本部
- II みどり園 [指定障害者支援施設・短期入所事業・地域生活支援事業]
- III 清川ホーム [指定障害者支援施設・短期入所事業・地域生活支援事業]
- IV 伊勢原ふたば保育園 [認可保育所・地域育児センター事業]
- V 本厚木ふたば保育園 [認可保育所]
- VI げんき家 [共同生活援助事業]
- VII つくし [就労継続支援B型事業]
- VIII アトリエ ヴェルデ [就労継続支援B型事業]
- IX つくし相談室 [相談支援事業]
- X 施設間連携室

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

I 法人本部

【総括】

平成30年度は、障害者支援施設事業活動の収入増等、財政上のプラス要因があった一方で、保育士不足による入所児童数の大幅な減による収入減というマイナス要因もありましたが、成瀬スタジオ未活用部分の土地の約半分を一括売却した収入及び残りの土地についても7区画に分譲する売買契約を締結し、そのうちの3区画の売却収入を確保できたため、平成30年度の単年度収支額は大幅な黒字になりました。

職員確保面の強化については、求人広告・求人サイトの拡充、ホームページの改修等の職員募集対策に取り組んだ結果、平成30年度は、正規職員の支援員、保育士をパート職員等を含めて20名を採用しましたが、年度途中の退職者が18名だったことから、保育士、支援員の不足を十分に補充するには至りませんでした。引き続き募集対策を検討し職員確保に努めるとともに、処遇改善や福利厚生の実施を図るなど、離職防止対策にもさらに取り組んでまいります。

ハード面については、清川ホームにおいて自動火災報知器等の防災設備と園庭整備を福祉医療機構の融資を受けて実施するとともに、地球温暖化・省エネ対策として、全ての照明をLED化したほか、平成26年度から計画的に行ってきたみどり園の既存棟改修工事を平成30年度の第7期改修工事で完成、本厚木ふたば保育園にスチームコンベクションオープンを導入し、より美味しい給食の提供、調理の作業時間・作業工程の改善、安全性の向上を図る等、環境整備を推進することができました。

このほか、本厚木ふたば保育園の送迎用駐車場を確保することで保護者の利便性の向上と事務の軽減を行ったほか勤怠システムをみどり園に試行導入するなど業務の見直しの具現化を図ることができました。

引き続き、利用者や園児に対する支援や保育の充実・向上や職員確保、円滑な法人運営に努めてまいります。

1 評議員会

平成30年 6月28日 【議案】
・平成29年度事業報告及び収入支出決算について

【報告事項】

- ・主な出来事について
- ・平成29年度事業報告（概要版）について
- ・職員就業規則の改正について

平成30年11月 8日 【議案】
・平成30年度補正予算（第1号）について
・みどり園基本財産の担保提供について
・清川ホーム基本財産の担保提供について

【報告事項】

- ・平成29年度事業報告（概要版・追加）について
- ・緑友会の創立40周年について
- ・異常気象等の経験を今後活かすために
- ・職員採用の取り組みについて

平成31年 3月27日 【議案】
・2019年度事業計画及び予算について

2 理事会

- 平成30年 4月26日 **【報告事項】**
- ・ 4月1日時点での入所者・園児等の状況について
 - ・ 成瀬スタジオ未活用地の状況について
 - ・ 貸付金の返済について
 - ・ 地球温暖化対策等の推進について
- 平成30年 5月30日 **【議案】**
- ・ 本厚木ふたば保育園の保育室床面積の変更について
 - ・ 金融機関からの借入(6月賞与支給等に係る一時借入金)について
- 【報告事項】**
- ・ 貸付金の返済について
 - ・ 成瀬スタジオ未活用地(2期)の売却について
 - ・ 清川ホーム：消防署指摘事項等改修工事について
- 平成30年 6月13日 **【議案】**
- ・ 平成29年度事業報告及び収入支出決算について
監査報告
 - ・ 平成30年度定時評議員会の招集について
 - ・ 金融機関からの借入について
 - ・ 成瀬スタジオ未活用地の売却(第2期)について
- 平成30年 7月25日 **【議案】**
- ・ 清川ホーム改修工事の入札について
 - ・ 清川ホーム改修に伴う(独)福祉医療機構からの借入について
- 【報告事項】**
- ・ 7月1日時点での入所者・園児等の状況について
 - ・ 実習生や教員実習等の受入れについて
 - ・ ヒヤリハットについて
 - ・ 地球温暖化対策の推進について
- 平成30年 8月29日 **【報告事項】**
- ・ 清川ホーム改修工事の入札結果について
 - ・ 地球温暖化対策等の推進について
- 平成30年 9月26日 **【報告事項】**
- ・ 第2回評議員会の開催日程について
 - ・ 成瀬スタジオ未活用地の売却状況について
 - ・ みどり園：施設整備の完了について
- 平成30年10月31日 **【議案】**
- ・ 平成30年度補正予算(第1号)について
 - ・ みどり園基本財産の担保提供について
 - ・ 清川ホーム基本財産の担保提供について
 - ・ 平成30年度第2回評議員会の招集について
- 【報告事項】**
- ・ 10月1日時点での入所者・園児等の状況について
 - ・ ホームページ斉点検について
 - ・ 行政主催の保育士募集イベントについて
 - ・ 清川ホーム改修工事について
 - ・ 台風24号の強風や夏の酷暑を今後活かす
 - ・ 伊勢原観光道灌まつりにについて
 - ・ 腰痛予防研修について

- 平成30年11月28日 **【議案】**
- ・金融機関からの借入(12月賞与支給等に係る一時借入金)について
- 【報告事項】**
- ・第2回評議員会(11月8日開催)の報告について
 - ・清川ホーム改修工事について
 - ・県の指導監査について
- 平成30年12月26日 **【報告事項】**
- ・清川ホーム改修工事について
 - ・県の指導監査について
- 平成31年 1月30日 **【報告事項】**
- ・1月1日時点での入所者・園児等の状況について
 - ・インフルエンザについて
 - ・利用者の逝去について
 - ・食事への異物混入について
 - ・伝承遊びについて
- 平成31年 2月27日 **【報告事項】**
- ・第3回評議員会の事前相談について
 - ・第12回理事会開催日の変更について
 - ・2019年度の理事会開催日程について
 - ・2019年度事業計画及び予算について
(3月理事会提出予定の事前説明)
- 平成31年 3月19日 **【議案】**
- ・2019年度事業計画及び予算について
 - ・平成30年度第3回評議員会の招集について

3 代表者会議

理事長、支援部門総括責任者、長塚顧問、総務局長、総務部長、各施設長、医療担当者代表、調理栄養担当者代表を構成員として、毎月(年12回)開催。法人全体に係わる問題・課題等についての協議のほか、各施設の主な課題等についての協議や事業の報告等を行い、法人全体で共通認識や分析、意思統一を図った。

4 広報戦略会議

理事長、支援部門総括責任者、総務部担当職員3名を構成員とし、毎月(年12回)開催。広報誌の内容、基本資料(パンフレット)・事業報告の作成、ホームページ(職員募集)の改善及び職員採用の体制整備などに関して協議を行った。

- ・基本資料作成(法人本部・アトリエ ヴェルデ)
- ・ホームページ(職員募集)の改善
- ・道灌まつり用の顔出し看板の作成
- ・年賀状の作成
- ・各施設の事業報告書の作成
新たに医療担当者会議・調理栄養士担当者会議の事業報告書を作成
- ・求人サイトの点検
- ・職員採用の体制整備・サポート体制強化
- ・広報紙「福祉の輪 拡げたい」
第30号(7月発行)：[表紙]「工事中の新東名高速道路」
第31号(1月発行)：[表紙]「生まれ変わる本厚木」
- ・法人内職員広報誌「ゆう」
V o 1. 0 4 (9月発行)
V o 1. 0 5 (3月発行)

5 表彰委員会

代表者会議の構成員で年1回開催。永年勤務者の表彰について協議を行った。

- ・永年勤務者表彰
 - 20年表彰 1名
 - 10年表彰 2名
- ・表彰日 平成30年3月24日（法人設立日）

6 医療担当者会議

看護師3名を構成員とし、月1回開催。利用者及び職員の健康管理・疾病予防対策等について協議しその対応を図った。結果として、雇用時健康診断の確認の強化、癌検診項目の追加、腰痛予防研修の企画を行った。

検討項目

- ・事業報告の作成
- ・各施設の感染症罹患状況・事故・怪我の報告及びその対策について
- ・利用者、職員の健康診断実施方法・項目の確認、追加について
- ・雇用時健康診断の確認強化、採用後面談、総務部との連携について
- ・歯科診察時の身体拘束、延命治療に関わる同意書の作成
- ・腰痛予防研修の企画

7 職員交流委員会

各施設から選出した委員8名で組織し、9回開催。法人全体の職員交流会の企画・運営を行った。平成30年度は、法人全体の第5回職員交流会を開催した。

【職員交流会】

- ・内容 懇親会（会場：レンブラントホテル）
- ・委員長 岩崎輝理事（法人総務部）
- ・開催日 平成30年11月16日（金） 午後7時から
- ・参加者 74名（職員73名、家族1名）

8 調理担当者会議

食事提供をしている施設の調理員5名、総務部1名を構成員として6回開催。職場での課題や問題点の協議や意見交換を行い、より一層の安全・安心な食事提供及び衛生面に配慮した調理業務に向け改善を図った。結果として、より効果的な清掃方法の共有やメニューの拡充、災害時の対応強化をする事が出来た。

検討項目

- ・事業報告の作成
- ・新メニューの開拓について
- ・厨房、食堂の衛生管理・清掃業務について
- ・行事食について
- ・災害時の食事対応について

9 栄養士会議

栄養士2名、調理員2名を構成員とし、5回開催。職場での課題や問題点の協議や意見交換を行い、栄養管理業務の改善を図った。

検討項目

- ・事業報告の作成
- ・アレルギー対応食や食形態低下に伴う個別対応について
- ・食材費高騰に伴う節約について
- ・栄養素の底上げ・栄養計算について
- ・栄養摂取量の改善について
- ・各施設間の情報交換

10 (仮称) 支援のあり方検討委員会準備会

事業所から推薦された職員6名を構成員とした(仮称)支援のあり方検討委員会準備会を2回開催。2019年度の支援のあり方検討委員会設置に向けた検討を行った。

検討項目

- ・支援のあり方の課題
- ・委員会の進行方法

11 衛生管理点検

衛生管理委員(非常勤特別職員)により、給食を提供している5施設の調理場等の衛生管理点検を月1回抜き打ちで実施し、結果を理事長はじめ関係者に報告するとともに、指摘事項については各職場で改善の取り組みを行った。

実施施設

- ・みどり園 ・清川ホーム ・伊勢原ふたば保育園 ・本厚木ふたば保育園
- ・つくし

12 施設整備等

- ・みどり園既存棟改修工事(第7期)
- ・清川ホーム改修工事(防災設備・園庭整備等)
- ・伊勢原ふたば保育園給食用ダムウエーター・リニューアル工事
- ・本厚木ふたば保育園スチームコンベクションオープンの導入
- ・清川ホーム照明のLED化

平成30年度の課題に対する自己評価

「改正後の社会福祉法人制度に基づく、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の確保を図るとともに、平成28年度以降続いている単年度収支の黒字を維持し、より一層の安定した財政の運営を目指す。また、福祉職職員確保が困難な状況を踏まえ創意と工夫により保育士や支援員の確保に努めるとともに、引き続き、職員の離職防止・処遇改善に取り組む。」を平成30年度の課題とした。(自己評価はP1総括に記載)

① 財政状況の安定確保

①-1 (仮称)成瀬スタジオ未活用部分の土地の売却収入の確保

⇒ 平成30年度は、障害者支援施設の事業活動収入の増額等の財政上のプラス要因や保育士不足による入所児童数の大幅な減による事業活動収入の減額というマイナス要因もあるが、成瀬スタジオ未活用部分の土地(1,954.38㎡)の半分、歌川側8区画(982.21㎡)の一括売却契約を平成29年度に、残りの875.81㎡についても7区画に分譲する売買契約を平成30年度に締結し、一括売却した収入及び分譲7区画のうちの3区画について平成30年度収入として確保できたため、平成30年度の単年度収支額は大幅な黒字となっている。

② 職員確保面の強化

②-1 職員募集方策のより一層の検討と実行

⇒ 求人広告・求人サイトの拡充、ホームページの改修等の職員募集対策に取り組んだ結果、平成30年度は、支援員7名、パート支援員3名、保育士4名、常勤補助保育士1名、パート保育士2名、調理員・栄養士・パート事務員を各1名採用できた。しかしながら、保育士、支援員の不足を十分に補充できなかったことから、引き続き募集対策を検討し職員確保に努めていく。

- ②-2 離職防止対策のより一層の検討と実行
 - ⇒ 処遇改善検討委員会を開催し、処遇改善手当の拡充や週休2日制を導入するなど事業所毎の働きやすい勤務体制を整えた。また、昨年度に引き続き職員交流会を開催し職員交流を図ったほか、職員向け広報誌「ゆう」を2回発行するなど離職対策の充実を図った。
- ③ ハード面の環境整備
 - ③-1 清川ホーム改善工事（防災設備・園庭整備等）
 - ⇒ 自動火災報知設備・スプリンクラー増設、屋外トイレの改修、園庭・職員駐車場のアスファルト舗装整備など、（独）福祉医療機構の融資制度を活用し整備した。さらに、地球温暖化・省エネ対策として、全灯のLED化をリース方式で実施した。
 - ③-2 みどり園の既存棟第7期改修工事
 - ⇒ 平成26年度から計画的に行ってきたみどり園の既存棟改修工事は、平成30年度の第7期改修工事で1階女性居室・浴室等を改修し、全ての工事を完了した。
 - ③-3 本厚木ふたば保育園のスチームコンベクションオープンの導入
 - ⇒ スチームコンベクションオープンを導入し、より美味しい給食の提供が可能となったほか、調理の作業時間・作業工程の改善、安全性の向上を図ることができた。
- ④ 安全性の向上（建築物・換気設備・非常用照明設備他）
 - ⇒ 建物分野のコンプライアンスパートナーによる各施設の建物に係る各種法令遵守の状況確認・建物点検を実施し、安全性の向上を図った。
- ⑤ 緑友会福祉プランの策定に向けて（2年目：業務の見直しの具現化）
 - ⇒ 業務改善委員会で提案された、本厚木ふたば保育園の送迎用駐車場の確保による事務の軽減や勤怠システムをみどり園に試行導入するなど業務の見直しの具現化を図ることができた。

Ⅱ みどり園

1 指定障害者支援施設 みどり園

(1) 利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍数	69	69	69	69	69	69	68	68	68	68	67	67
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
29年度 在籍数	69	69	69	69	68	67	68	68	68	68	69	69

(2) 生活介護通所者数 (入所利用者以外の通所による生活介護の利用者)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
29年度 在籍数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(3) 行事

4月 2日	開園記念式
5月 24日	～25日 一泊旅行(伊豆方面)
5月 31日	～6月1日 一泊旅行(石和方面)
6月 19日	つくし衣類訪問販売
7月 6日	・8日 平塚七夕祭り
7月 21日	サマーフェスティバル in 清川ホーム
8月 18日	納涼祭
8月 25日	地引網
9月 2日	向上高校こゆるぎ祭
9月 22日	伊勢原市障害者スポーツ大会
10月 31日	ハロウィンパーティー
11月 3日	バザー
11月 22日	日帰り旅行(ちびまる子ちゃんランド)
11月 25日	ミカン狩り
12月 11日	つくし衣類訪問販売
12月 17日	クリスマス会
12月 23日	向上高校餅つき大会・チャリティーコンサート

(4) 防災

日 時	訓練種別	訓練状況
9月 3日 10:00～	防災訓練 (地震警戒宣言発令想定)	避難訓練後、炊き出しを行い、火災訓練、担架による搬出訓練を行った。
9月 11日 9:30～	避難訓練 (日中地震想定)	緊急地震速報を想定して訓練を行った。
9月 21日 9:30～	避難訓練 (がけ崩れ想定)	職員のがけ崩れに対する意識は向上してきているため、利用者へ避難の必要性を周知した。
1月 29日 9:30～	避難訓練 (日中地震想定)	緊急地震速報を想定して訓練を行った。
2月 13日 9:30～	避難訓練 (日中地震想定)	緊急地震速報を想定して訓練を行った。
2月 20日 9:30～	避難訓練 (日中火災想定)	1階男性棟洗面所より出火想定で訓練を行った。
2月 27日 9:30～	避難訓練 (日中火災想定)	男性風呂場より出火想定で訓練を行った。
3月 8日 9:30～	避難訓練 (日中火災想定)	2階女性棟洗面所より出火想定で訓練を行った。
3月 20日 13:30～	総合訓練 (夜間火災消防立会い)	夜間に1階男性棟洗面所からの出火想定で訓練を行った。夜勤者2名の時間帯を想定し訓練を行った。

・業者による年2回の定期防災機器点検に加え、自主点検も年2回実施した。

(5) 広報

「園だより」を3回発行した。

- ・第170号（6月9日発行） 新年度あいさつ・開園記念日・神奈川県障害者スポーツ大会・月間外出・いせはら芸術花火大会・一泊旅行避難訓練・大掃除・ひなまつり・職員紹介
- ・第171号（11月10日発行） パンバイキング・納涼祭・伊勢原市障害者スポーツ大会・一泊旅行・平塚七夕祭り・富岡ホーム納涼祭・つくし移動販売・健康診断・職員研修・神奈川県障害者スポーツ大会・職員紹介
- ・第172号（3月9日発行） フリーマーケット・ハロウィンパーティー・バザー・みかん狩り・クリスマス会・向上高校チャリティーコンサート・日帰り旅行・映画鑑賞会・行事食・書道展見学グループ便り・フォトギャラリー・お知らせ・編集後記

常設記事

(6) 権利擁護、本人活動支援

- ① 利用者自治会
年間10回開催。旅行・納涼祭等の行事について話し合ったほか、要望や困ったことなどについて意見が出された。
- ② 人権委員会
年2回アンケート実施。利用者の呼称・利用者への情報提供・プライバシーの保護・インフォームドコンセントについて話し合った。

(7) 職員研修

日 時	研修種別	研修内容
4月 23日 17:00～	オムツの当て方研修 講師：和田支援員	オムツの適切な当て方、交換方法について実践を交えて学んだ。
5月 28日 17:00～	喉詰まり時の適切な対処法 講師：和田支援員	喉詰まり時のマニュアルを使用し、喉詰まりセットの使用方法等について学んだ。
6月 14日 15:45～	3施設合同新人研修 組織の職員としての心構えについて	グループワークを中心に、組織の職員としての心構え・直接的技能について学んだ。
6月 25日 17:00～	福祉における説明責任について 講師：和田支援員	福祉における説明責任の重要性を学んだ。
7月 23日 17:00～	防災研修 防災に係る説明	防災マニュアルを使用し、各種機材の使用方や各種災害について学んだ。
8月 27日 17:30～	個別支援計画書について 講師：秋本副施設長	個別支援計画書の作成にあたっての、基本的視点について学んだ。
9月 25日 13:30～	摂食嚥下について 講師：松田悦子氏	摂食の流れや体験実習を交え、摂食嚥下について学んだ。
9月 25日 17:00～	スーパービジョンについて 講師：和田支援員	スーパービジョンについての、目的・方法・姿勢等を学んだ。
10月 13日 14:00～	意思決定支援研修 講師：赤平守氏	保護者会と合同で、意思決定支援について学んだ。
10月 22日 17:00～	虐待事例検討研修 講師：米満課長	虐待についてのアンケートを実施し、グループワークを行いながら虐待防止について学んだ。
12月 5日 13:30～	どうすれば福祉のプロになれるか 講師：久田則夫氏	どうすれば福祉のプロになれるか、福祉の心（5K⇒互恵の心）が大切であることを学んだ。
1月 28日 17:00～	実習事前事後に繋がる新しい評価の視点 講師：藤井支援員	実習生を迎えるにあたり、実習事前事後に繋がる評価の新しい視点について、グループディスカッションを交え学んだ。
3月 25日 17:00～	不審者対応等防犯訓練研修 講師：高橋支援員	不審者対応等防犯訓練を実施し、実際の不審者への対応等について学んだ。

2 その他の事業

(1) 短期入所事業

年間 延べ人数 177人 利用日数 928日 (平成29年度 138人 839日)

(2) 地域生活支援事業【公益事業】

(日中一時支援事業)

年間 延べ人数 1004人 (平成29年度 961人)

(余暇活動支援事業)

年間 延べ人数 0人 (平成29年度 0人)

平成30年度の課題に対する自己評価

- 1 第7期改修工事については、引き続き工事関係者と連携して入所利用者のサービス提供維持に努める。また、居室の改修の際には利用者の生活への影響を最小限にとどめるようにする。
⇒ 第7期改修工事で1階女性居室7室・浴室・洗面所・トイレの改修を行い、生活環境の向上を図ることができた。また改修工事にあたっては、仮設間仕切り等を施すこと等により入所利用者への生活影響は最小限にとどめることができた。
- 2 より一層のサービスの向上を目指し、グループ編成の検討を更に進めていく。
⇒ グループの再編成の検討を行い、3グループから4グループに体制を変更した。年度途中からの変更で活動実績も少ない状況であるため、引き続きグループ活動のあり方について検討して行きたい。
- 3 防犯意識を高める上で、不審者対応等防犯訓練を年1回以上は実施していく。
⇒ 不審者対応等防犯訓練を実施し、防犯対策についての知識を深めることができた。
- 4 業務見直し：レスパイトサービス事業受託終了後のサービスのあり方を1年掛けてじっくり見直す。
⇒ レスパイトサービス事業受託を終了したことにより、納涼祭等の行事に職員一体となって取り組むことができ、一つ一つのサービスに余裕も生まれ質の高いサービスを提供することができた。引き続きサービスの質の向上に努めて行きたい。
- 5 業務見直し：配偶者控除枠変化を含めて職員配置の検討
⇒ 配偶者控除枠変化の影響はなかったため、制度改正に伴う職員配置の具体的な変更の検討は行わなかった。

Ⅲ 清川ホーム

1 指定障害者支援施設 清川ホーム

(1) 利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍数	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53
入所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
30年度 在籍数	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53

(2) 行事

- 5月 12日 ふれあいフェスティバル
 7月 21日 サマーフェスティバル in 清川ホーム 25
 12月 18日 クリスマス会
 1月 15日 どんど焼き
 1月 22日 敬老の祝い (還暦1名、古希2名、傘寿1名)
 月例行事 みんなの会

グループレクリエーション

	一泊旅行
Aグループ	10月30日～31日 山梨方面
Bグループ	10月 2日～ 3日 千葉方面
Cグループ	10月16日～17日 伊豆方面
Dグループ	10月23日 山梨方面

(3) 防災

日 時	訓練種別	訓練状況
4月 10日 13:30～	避難訓練・浄水訓練 (地震:日中想定)	地震の訓練が、定着しつつある。 浄水訓練も行った。
5月 8日 13:30～	避難訓練・消火訓練 (火災:日中想定)	日中2階廊下からの出火を想定した避難訓練を行った。消火栓訓練も実施した。
6月 12日 9:00～	避難訓練・炊き出し訓練 (地震警戒宣言発令想定)	避難訓練後、炊き出しを行い非常食で昼食。 訓練終了後、反省会を実施し問題点を確認した。
7月 10日 13:30～	避難訓練・消火訓練 (火災:日中想定)	日中2階廊下からの出火を想定した避難訓練を行った。消火栓訓練も実施した。
8月 7日 13:30～	避難訓練・浄水訓練 (地震:日中想定)	安全第一迅速な避難誘導を目的とした訓練を実施した。浄水訓練も実施した。
9月 11日 13:30～	避難訓練・消火訓練 (火災:夜間想定)	夕食後2階廊下からの出火を想定した避難訓練を行った。厚木消防署へ訓練報告した。
10月 9日 9:00～	避難訓練・図上訓練 (地震:日中想定)	避難訓練後、10月1日に起こった停電時の対応を再確認し、停電時の対応の検討をおこなった。
11月 13日 13:30～	避難訓練・消火訓練 (火災:夜間想定)	22時の想定で職員2名で行った。出火は医務室。消火栓による消火訓練も実地した。
12月 11日 13:30～	避難訓練・除雪機訓練 (地震:日中想定)	スムーズに避難場所まで移動できた。除雪機の操作訓練を行った。
1月 8月 13:30～	避難訓練・除雪機訓練 (火災:夜間想定)	22時の想定で職員2名で行った。厚木消防署へ訓練報告した。除雪機の操作訓練を行った。
2月 12日 13:30～	避難訓練・除雪機訓練 (地震:日中想定)	スムーズに避難場所まで移動できた。除雪機の操作訓練を行った。
3月 12日 13:30～	避難訓練・除雪機訓練 (火災:日中想定)	夕食後2階廊下からの出火を想定した避難訓練を行った。除雪機の操作訓練を行った。

業者による年2回の定期防災機器点検に加え、自主点検も2回実施した。

(4) 広報

「清川ホームだより」を2回発行した。

第129号 (9月22日発行) サマーフェスティバル、春の日帰りレク、その他行事報告

第130号 (3月23日発行) 還暦・喜寿・傘寿の祝い、秋の日帰りレク、その他行事報告

常設記事 作業収益報告、お知らせ、編集後記

(5) 権利擁護、本人活動支援

① あおぞらプラン (かながわ知的障害者権利擁護プラン) の取り組み

神奈川県知的障害施設団体連合会が定めた「あおぞらプラン」に沿って、清川ホームでの実践課題を4つの柱に整理し取り組みを進め、半期に一度まとめを行った。(①生命の安全と健康を保障 ②人権を尊重 ③自己決定、本人の意思を尊重 ④プライバシーの尊重)

② 苦情解決 (厚木地区オンブズマンネットワークの取り組み)

年間10回の相談会を実施。延べ52名の利用者が相談した。食堂をオンブズマン相談会に利用。相談者1人ひとり、順番に相談を行っている。相談内容については、改善や検討の必要に応じ、支援会議等で協議して対応した。

③ 本人活動支援 (厚木地区としての活動)

厚木地区の本人活動支援 (A ネット協力員) 運営会議に年間3回参加した。利用者研修会として、カラオケに参加した。

④ 本人活動支援 (清川ホームとしての活動)

利用者の声を聞く会・答える会

年間12回実施。今年度も食事や外出に関する希望が多く寄せられた。利用者間の関係、日頃の生活の問題など内容もバラエティに富んだものとなっている。また、掲示版を整備、加えて資料を用意した。文字による情報提供も強化した。アンケート箱の利用もあり、今後も代筆等のサポートを行なっていく。

(6) 職員研修

毎月第2木曜日に職員研修を実施した。人権についての研修、自動吸引器・手動吸引器の使用方法について、てんかんについて、摂食・嚥下について、褥瘡について、外部研修(防犯研修、高齢者セミナー、知的障害者の方の身体機能低下について)の研修報告を行った。講師を招き、AED・心肺蘇生法の研修、不審者対応訓練を行った。

2 その他の事業

(1) 短期入所事業

年間 延べ人数 80人 延べ利用日数 1,250日 (平成29年度 84人 1,262日)

(2) 地域生活支援事業【公益事業】

(日中一時支援事業など)

年間 延べ人数・延べ利用日数 354人/年 (平成29年度 178人/年)

平成30年度の課題及び現時点での自己評価

- 1 高齢利用者の健康管理に配慮し、椎茸作業・薪作業等を中心とした日中活動を提供し、体力の維持・向上を図る。
 - ⇒ 高齢利用者は、健康的に過ごす事ができた。作業については、例年通りの活動を維持向上することができ、ペットボトルのキャップ選別作業の新しい取引先も開拓できた。また、清川ホーム改修工事を実施し、防災面の各種改善や外トイレ・蒔作業場を改修すると共に駐車場整備、施設内通路の舗装打ち換えなどを行った。
- 2 施設内外の研修をより一層の充実した内容にする。防犯強化のため不審者対応訓練を引き続き実施する。
 - ⇒ 施設内研修は、出張研修の報告を中心に行い、施設外研修は、津久井やまゆり園利用者の「意志決定支援について」研修会へ職員を派遣するなど、実施への協力をした。昨年に引き続き、清川村と共催で刈払機の講習会を実施し、10名の職員が受講した。また、不審者対応訓練も行い、防犯強化に努めた。
- 3 夜間想定やスモークマシーンを使用した避難訓練などの取り組みが、利用者の日常生活のなかで定着するように努める。
 - ⇒ 夜勤者2名による夜間想定避難訓練やスモークマシーンを使った避難訓練を引き続き行った。避難の仕方も少しずつ利用者に浸透している。また、消防等の指摘事項について改善するため、スプリンクラーヘッドの増設、熱感知器を煙感知器へ交換するなどを行った。
- 4 チームワークを重視し、ベテランと新人の調和をはかりスタッフ間の連携を図るとともに、不足している支援員、調理員の確保に努める。
 - ⇒ 良好なチームワークや職員連携に努めると共に、支援員と調理員の確保を計画的に行った。支援員、栄養士、調理員の確保では、新規採用や他事業所からの異動、職員の育児休業からの復帰等により、着実な改善の見通しがついた。
- 5 地域や施設の環境整備等の活動を推進し、近隣関係者と協力し合える関係づくりを強化する。
 - ⇒ 昨年同様、隣地の樹木の伐採を地域の方々に発注し行っていただいた。また、清川村の関係者と「あつぎごちやまぜフェス」に参加し、日頃、ミュージックセラピーで練習している打楽器演奏を行い、新聞2紙に掲載される等、協力し合える関係づくりを進めた。
- 6 業務の見直し:危機管理の確認と徹底
 - ⇒ 昨今の異常気象ともいわれる真夏日・熱中症対策として、サマーフェスティバルの準備と片付けは、外部の人の協力をいただき短時間で行った。
 - ⇒ 9月の台風24号による長時間の停電が本施設を含む村全体で起きた。その際の経験を活かし、浴槽にトイレ用の水をはったり、ランタンを使用したり、災害時の対応の確認、対策を検討することができた。

IV 伊勢原ふたば保育園

1 認可保育所 伊勢原ふたば保育園

(1) 平成30年度園児人数

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0才	11	0	0	0	0	3	3	3	4	5	5	5	5
1才	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
2才	18	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16
3才	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
4才	28	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	20	20
5才	30	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
合計	120	93	93	93	93	96	96	94	95	96	96	97	97
	29年度	106	110	112	112	113	113	113	113	113	113	113	113

(2) 行事

4 月	2 日	新入園児歓迎会
	7 日	保育説明会・懇談会
	20 日	5 歳児プラネタリウム見学
5 月	18 日	4 歳児春の遠足 (平塚総合公園)
	24 日	5 歳児春の遠足 (わんぱくランド)
	29 日	けやきの郷との交流会 (4 歳児) 1 回目
6 月	1 日	3 歳児春の遠足 (防災の丘公園)
	14 日	田植え (5 歳児)
	18 日	幼児交通安全教室
7 月	26 日	けやきの郷との交流会 (4 歳児) 2 回目
	2 日	プール開き
	5 日	七夕の集い
9 月	6 日	おたのしみ会 (5 歳児)
	14 日	夏まつり
	7 日	引き渡し訓練
10 月	6 日	運動会
	15 日	稲刈り体験 (5 歳児)
	19 日	4 歳児秋の遠足 (新江の島水族館)
11 月	25 日	芋ほり (4, 5 歳児)
	26 日	3 歳児秋の遠足 (里山公園)
	1 日	みかん狩り (4 歳児)
12 月	2 日	5 歳児秋の遠足 (ズーラシア)
	8 日	消防署見学 (3・4・5 歳児)
	9 日	消防署見学 (3・4・5 歳児)
1 月	12 日	高森荘との交流会 (5 歳児)
	21 日	やきいも作り (5 歳児)
	8 日	リズム発表会
2 月	25 日	クリスマス会
	28 日	保育終了の会
	7 日	新年の集い
3 月	18 日	新春マラソン大会
	29 日	石田小との交流会 (5 歳児)
	31 日	防災センター見学 (5 歳児)
2 月	1 日	豆まき
	15 日	20 周年記念行事 (影絵鑑賞)
	1 日	ひなまつり
3 月	8 日	5 歳児卒園遠足 (八景島シーパラダイス)
	12 日	お別れ会
	16 日	卒園式

※このほか毎月、身体測定・誕生会を行う。

※5月～6月・1月～2月に個人面談を行う。

(3) 防災

日時	訓練種別	訓練状況
4月7日 10:30	避難訓練 (火災想定)	年度初めの訓練に伴い、各クラスで避難について紙芝居等を通して学んだ。
5月17日 10:00	避難訓練 (地震・火災想定)	地震から火災が発生し、駐車場に避難となったが各クラススムーズに避難をすることができた。 (予告なし)
6月9日 10:00	避難訓練 (火災想定)	土曜日の異年齢の保育中の火災を想定して訓練を行った。(予告なし)
7月26日 15:50	避難訓練 (地震・火災想定)	バケツリレーを行い、実際に子ども達の前で火を消す訓練を行った。(予告なし)
8月29日 15:30	避難訓練 (地震・火災想定)	雨が降っている想定で園庭に避難をし、ブルーシートなどで雨が当たらないように対応した。 (予告なし)
9月 7日 9:45	避難訓練 (地震、火災想定総合訓練)	5歳児を対象に広域避難場所(成瀬小学校)までの避難訓練の予定だったが、当日雨が降っていた為後日、成瀬小学校まで行った。
16:00～	引渡し訓練	避難訓練と同時に、16:00に職場・家庭からお迎えに来てもらい、保護者への引き渡し訓練を行った。保育室の中を訓練用の煙で充満させた状態で避難体験を行い、より実際の避難に近い形で避難体験をすることができた。
10月23日 14:50	避難訓練 (台風・竜巻想定)	お昼寝あけで、まだ寝ている子どももいる中の訓練だったが、子ども達が混乱することなく避難誘導することができた。(予告なし)
11月 13日 14:30	避難訓練 (地震・火災想定)	午睡中の地震発生ということで、寝ている園児を不安にさせないよう安全に誘導することができた。(予告なし)
11月28日 10:30	不審者対応訓練 (散歩中の想定)	不審者が近づいてくるのを確認し、速やかに園に連絡をし避難することができた。(予告なし)
12月27日 17:30	避難訓練 (落雷停電想定)	停電後、各クラスのランタンを使用しながら、安全に避難することができた。(予告なし)
1月28日 11:00	避難訓練 (火災想定)	ミサイル発射にともない、Jアラートが鳴ったのを確認し、園内放送にて各クラスに伝え避難体制をとった。(予告なし)
1月30日 15:50	不審者対応訓練 (園庭侵入想定)	刃物を持っている不審者が園庭に侵入し、職員を人質にとる。園内に不審者発見の放送を流し、各クラス避難体制をとることができた。 (予告なし)
2月28日 7:30	避難訓練 (地震想定)	早朝保育時間中の地震発生を想定して訓練を行った。園内にいた保護者も一緒に参加した。
3月28日 10:00	避難訓練 (地震想定)	全園児対象で、広域避難場所(成瀬小学校)まで速やかに避難することができた。(予告なし)

(4) 広報

- | | |
|--------------|-------|
| ○園だより、クラスだより | 毎月発行 |
| ○保健だより | 年4回発行 |
| ○ホームページの更新 | 随時 |

2 その他の取り組み

(1) 地域育児センター事業

ア 育児相談 延べ件数 13件 (平成29年度 26件)
施設開放時・電話相談・面談等

イ 子育て家庭交流事業

- ① 園庭開放
園庭を開放し、地域の子育て同士の交流、相互の情報交換の場を提供し、また、保育園児との交流を図った。
- ② 成瀬地区の子育て支援の取り組み
年4回成瀬地区の子育て支援の取り組みとして、成瀬中学校の学区にある教育機関の教職員で構成している「伊勢原市教育センター 地域にある教育機関等連絡協議会 Bブロック」に当園も参加。地域の挨拶運動を重点に、のぼり旗を輪番で設置するなど交流を行った。

ウ 中高生と園児の体験交流事業・夏期保育体験

- 7月24日・25日・26日 2名
- 7月31日・8月1日・2日 2名
- 8月7日・8日・9日 2名
- 8月21日・23日・24日 2

市内在中の中高生に、夏休みを利用した保育体験を通して、生命の大切さとともに、保育園や保育士の仕事を理解できるよう体験してもらった。

エ 世代間等交流事業

- 5月29日・6月26日 湘南けやきの郷との交流会
湘南けやきの郷に4歳児が訪問し、利用者の方と歌・手遊びなどのレクリエーションやプレゼント交換を行い、交流を図った。
- 11月12日 ケアセンター高森荘との交流会
湘南けやきの郷と同様の交流を行った。

(2) 一時預かり事業

利用状況 (延べ利用人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
30年度	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	4人
29年度	0	0	0	0	2	0	1	0	3	1	0	0	7人

(3) 職員研修

不審者対応では、警察署の方に来ていただき実演を交えて対処法を知ることができた。また、保育所保育指針の改定に伴い、今までとの違いやこれからの取り組みに関して全体に周知することができた。

(園内研修)

月 日	内 容	受講人数
6月15日	保育指針について① (渋谷先生)	15人
6月19日	応急措置の対応 (災害時等) (伊勢原市消防署)	全職員
7月4日	AED講習 (伊勢原市消防署)	全職員
9月10日	保育指針について② (渋谷先生)	全職員
11月19日	保育指針について③ (渋谷先生)	20人
3月4日	自己評価まとめ (主任)	20人

(外部研修)

月 日	場 所	内 容	対 象
6月 5日	港南台	カウセリングを生かした保護者対応 6/26・7/24・9/25・1/22 計5回	保育士
6月11日	港南台	3歳児保育研修 「3歳児の遊びと環境」・「3歳児の発達と保育」 7/13 計2回	保育士
6月15日	港南台	4・5歳児保育研修「4・5歳児の発達特徴」 「子どもの体と心」 9/14 計2回	保育士
6月16日	港南台	改訂保育所保育指針これからの保育を考える	保育士
6月19日	港南台	0歳児保育研修「0歳児の発達と特徴」 「0歳児と保育者の関わり方」 9/13 計2回	保育士
8月29日	横浜	保育の質の向上のための取り組み	保育士
9月21日	横浜	保育環境を考える、子どもの遊び研修会	保育士
10月12日	伊勢原	保育所給食研究会 3/22 計2回	調理員
10月30日	横浜	保育園利用者相談室「苦情解決の取り組み」	保育士
11月 5日	横浜	食べることを嫌がる乳幼児への対応	保育士 調理員
11月10日	横浜	リズム・手あそび研修	保育士
1月23日	秦野	相模原市公立保育所の食育と周りへの働きかけについて	調理員
2月 9日	横浜	保育士の災害時の行動について	保育士
3月11日	秦野	乳幼児の摂食機能発達支援～様々な事例から～	保育士

近隣で行われる研修には積極的に職員を派遣し、職員会議において研修報告を行った。

平成30年度の課題に対する自己評価

- 1 保育士確保に努めるとともに保育や実習生受け入れ時などの業務の見直しを行い、限られた人数でも、より高い水準での保育ができるようピンチをチャンスに変えるように検討する。
⇒実習受け入れでは、実習生の特性を見極め、実習を通して保育士の仕事を知り、子どもと沢山関わることを大事に受け入れをした。自己評価・園評価の低い箇所を各自意識し取り組むことで、より保育の質を高めることができた。
- 2 保育所保育指針改定を受け、職員が内容を共有し保育内容に活かしていく。
⇒指針の改訂に伴い、園内学習や各クラスの課題を中心に取り組むことができた。中でも、環境に重点を置いて、環境設定や手作り玩具の提供など、子どもの姿に合わせながら取り組むことができた。

- 3 外部研修や園内研修などを通じ職員の資質や専門性の向上を図り実践していく。
⇒外部研修では、研修後に職員会議で全体に周知し、各クラス実践することができた
また、園内研修では子どもの命に関わる研修は全員が参加し保育指針については前年度の改訂前の研修を踏まえて、より深いところまでの内容を学習することで保育に実践することができた。
- 4 他機関との連携の充実を図り、職員・保護者が一体となって子どもの最善の利益を保証する。
⇒ 他機関との連携では、看護師と保育士が情報を共有し、保護者を交えてカンファレンスを行うことができた。
- 5 子どもや保護者のおかれている背景を理解し、安心・安全な保育運営を行う。
⇒ 日々のコミュニケーションや個人面談を通して、保護者との信頼関係を築き保護者が安心して子どもを預けられるように努めた。
- 6 地域育児センター事業としての機能を充実させていく。
⇒ 園庭開放や園見学などの事業は地域の方々にも浸透しているが、他の事業に関しては引き続き役割を果たせるよう努めたい。
- 7 開園20周年記念行事を実施する。
⇒ 記念事業として”影絵劇団”を招いて、様々な影絵を子どもたちと楽しんだり、実際に影絵を体験することができた。また、記念品として紅白饅頭を全保護者職員に配付した。
- 8 業務見直し：IT化推進「総合保育業務支援システム」を導入するとともに、園全体の事務処理等の改善を図る。
⇒ 導入が2019年度からだった為、導入に向け準備を進め3月に保護者にも周知をした。

V 本厚木ふたば保育園

1 認可保育所 本厚木ふたば保育園

(1) 平成30年度園児人数

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0才	12	0	0	0	0	2	2	2	2	3	3	3	3
1才	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
2才	13	9	9	10	10	9	9	9	10	10	10	10	10
3才	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
4才	14	10	10	10	11	11	13	14	14	13	13	13	14
5才	14	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
合計	79	55	55	56	57	58	60	61	62	62	62	62	63
29年度	79	61	62	64	64	67	68	70	70	70	70	70	70

(2) 行事

4月 2日	入園・進級式 保育説明会及び懇談会	1月 7日	新春の集い
5月 7日	さつまいも苗植え	18日	伝承遊び
18日	遠足（荻野運動公園 3歳以上）	15日～2月22日	個人面談
5月 7日～6月22日	個人面談	2月 1日	豆まき
18日	田植え（5歳）	15日	お店屋さんごっこ
7月 6日	七夕の集い	3月 1日	ひなまつり会
14日	夏まつり	8日	お別れ遠足
9月 8日	引渡し訓練	13日	ひまわり組を送る会
10月13日	運動会	15日	思い出遠足
16日	プラネタリウム	20日	卒園式
19日	お楽しみ会（宮ヶ瀬ミーヤ館）	29日	修了式
26日	芋ほり		
11月 8日	人形劇（厚木市主催）		*各月に、誕生会、身体測定 避難訓練などを実施
9日	クラス懇談会		
16日	秋の遠足（麻溝公園）		
12月15日	生活発表会		*年2回 内科健診、歯科健診
25日	クリスマス会		

(3) 防災

日時	訓練種別	訓練状況
4月24日 9:45～	避難訓練 (凶上、地震・火災想定)	各クラスで避難・消火・通報について紙芝居などを通して話し合った。乳児クラスは保育士の動きを確認した。
5月15日 9:45～	避難訓練 (地震想定)	各クラスで防災頭巾の被り方の説明をした。避難通路までの避難訓練を行った。3・4・5歳児は園庭へ避難した。
6月 5日 予告なし	避難訓練 (火災想定)	園内放送をよく聴き、落ち着いて行動する訓練を行った。
6月12日 9:45～	避難訓練 (不審者想定)	不審者から子どもを離し、侵入者の目に触れないように避難した。
7月10日 9:30～	避難訓練 (火災想定)	園庭からの火災を想定し、放送を聴いて保育士の指示で行動した。
8月 7日 14:55～	避難訓練 (地震想定)	午睡中の地震発生を想定して、訓練を行った。
9月 7日 16:00～	避難訓練 (地震想定総合訓練)	16:00に警戒宣言発令を想定し、SNSで保護者に連絡。
16:30～	引渡し訓練	発令を受けてからの、保護者対象の引渡し訓練を行った。さつき公園での引き渡しを実地した。
10月 2日 17:00～	避難訓練 (火災想定)	遅番の時間帯の避難を想定して対応できるようにした。園内にいた保護者も参加した。
11月 6日 10:30～	避難訓練 (地震想定)	園外活動（散歩）中の避難訓練を行った。スムーズに避難でき、園に連絡できた。
12月 4日 8:30～	避難訓練 (火災想定)	給食室からの火災を想定し、放送を聴いて園庭まで避難した。
1月 8日 予告なし	避難訓練 (火災想定)	予告なしで園内放送で避難した。
2月 5日 予告なし	避難訓練 (地震想定)	早番の時間帯での避難を想定して対応できるようにした。園内にいた保護者も参加した。
2月19日 予告なし	避難訓練 (不審者対応)	実際に不審者役が侵入し、速やかに避難した。
3月 5日 15:30～	避難訓練 (火災想定)	火災現場を把握し、適切な避難ができるようにした。（予告なし）

(4) 広報

- 園だより、クラスだより毎月発行
- 保健だより 年4回発行
- ホームページ内の「園内イベント紹介」は、行事を行うごとに更新した。

(5) 職員研修

*外部研修

5月	12～13日	歌・リズム・絵in横浜
	20日	赤ちゃんの育て方
	31日	衛生管理と食中毒予防
6月	30日	「食べる力」は子どもの「発達力」と「生きる力」の原動力
7月	1日	0歳児の発達と保育
	18日	改定保育所保育指針と保育実践をつなぐ
9月	9日	赤ちゃんの育て方
	10～12日	保育所などマネジメント研修会
11月	5日	食べる事を嫌がる乳幼児への対応
	20日	給食における食中毒防止対策及び衛生管理について
	24～25日	秋の保育総合研修

*内部研修

6月	15日	保育所保育指針
	27日	乳幼児の精神・運動発達と生活リズム
9月	27日	子どもの命の守り方
11月	28日	地域支援について
1月	30日	みんなでつくる保育の未来
3月	13日	マネジメント

※年間通して それぞれの研修発表

2 その他の取り組み

① 和太鼓への取り組み

年長児が、運動会での発表に向けて、和太鼓に取り組んだ。
礼儀作法や、姿勢、リズム感など真剣に取り組む事ができた。
また、年間を通して取り組み、年の後半は全学年で実施できた。

② 厚木看護専門学校訪問

看護学生の手作りおもちゃで遊んだ。
0歳児から参加でき、楽しむ事ができた。
実際に園でも作り、お店屋さんごっこで披露し、楽しんだ。
職員にも良い刺激になる催しである。

③ 「さくら・さくらんぼのリズム」を实践

職員全体で研修に出かけ、共有できるようにし、子ども達が楽しみながら取り組めるようにした。
毎日取り組むことで、子ども達の体幹を鍛え、心身共に成長していく事ができるよう、心掛けた。

- ④ 食育に取り組み、子ども達の食に対する意識付けを、より一層高めるようにした。行事に対してや、日本の古くからの習慣など、家庭では得られないものも、大いに取り入れた。実際に調理器具なども使用したり、おやつを作り配膳したりと子ども達が興味を持ちながら取り組めるようにした。

平成30年度の課題に対する自己評価

1 保育士確保に努めるとともに、年々明確になってきた本厚木ふたば保育園の目指す保育を更に職員間で共有し、保育方針を見直す。

⇒ 首都圏全体で保育所が増えていることから、保育士確保については厳しさを増している。本厚木ふたば保育園の目指す保育を共有するため、職員全体で研修に参加したり、保育方針を確認し、さくら・さくらんぼのリズムを保育に取り入れた。

2 「保育指針」改訂を受けて、職員の相互理解に努め、活用する。

⇒ 研修を通して職員の「保育指針」の相互理解を得るように努め、指針に基づいた保育に取り組んだ。

3 職員が同じ方向性を目指し、日々の保育に取り組む。

⇒ 研修等を通して職員の資質や専門性の向上に努め、研修を活かした保育に取り組んだ。

4 地域の特徴を出し、地域に溶け込んだ保育園を目指す。

⇒ 日々の保育に追われたり、余裕がないため、地域の子育て支援は充実できなかったが、公園で地域の方と一緒に遊び、地域内の他園との交流はできた。

なお、厚木市が取り組んでいる、おむつ替えや授乳のできる赤ちゃんの駅「ベビリア」としての提供はできた。

5 真心保育で、安心・安全な保育園運営ができるように職員が一丸となって取り組む。

⇒ 保育士としての自覚の向上を図り、子ども達一人ひとりに対し丁寧に、より安心安全な保育を目指した。

VI げんき家

共同生活援助事業

1 設置場所

伊勢原市桜台2-16-25 エクセル伊勢原201号 利用者 4名

2 利用者に対する支援

知的障害のある者が、地域で自分らしく生きることができるよう暮らしのサポートを行い、交流、共感、体験を念頭に、利用者の立場に立ったサービスを提供した。

3 ホームの1日

時間	主な内容
7:00	起床 朝食 出勤 【職場、施設、作業所など】
17:30	帰宅 (世話人と夕食づくり)
18:30	夕食 (世話人と食器片付け)
19:30	入浴 自由時間 就寝

※ 休日は、自由行動。(帰宅、買い物、趣味嗜好の外出など)

大きな事故等もなく、利用者の地域生活に密着した支援ができた。

入居利用者1名が、新しい就労先で仕事を行われている。健康管理について世話人と連携を図り、早期対応を行った。

バックアップ施設となっているみどり園の職員と世話人との協力体制のもと、土日の食事提供を行いながら利用者の状況把握に努めた。

平成30年度の課題に対する自己評価

- サービス管理責任者を中心に、入居者の特性について理解を深め、管理者兼世話人との連携を図る。
⇒ 入居者の特性についての理解の共有を図ることが出来た為、管理者兼世話人との連絡調整も円滑にできた。
- 高齢入居者の健康管理に重点を置きながら、一般就労している方の就労継続を支援していく。
⇒ 高齢入居者の健康管理に重点を置く支援を心がけ、必要に応じて通所先への送り出しの見守り等も行っている。一般就労している利用者にはコミュニケーションをとり、必要に応じて管理者兼世話人と連携を図った。
- 職員は、法人内外の研修参加を継続する。
⇒ 法人内外の研修に参加した。研修時には必要に応じて、みどり園の職員がフォローに入り対応した。

Ⅶ つくし 就労継続支援B型事業所

定員 30名 所在地 伊勢原市伊勢原3-6-7 (伊勢原スタジオ)

1 利用者数 (月別の開所日数、1日平均利用者数)

平成30年度実績

登録者平均利用率 45.81%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
開所日数	26	25	26	24	25	25	28	26	25	25	23	26	25.3
登録者数	50	50	51	51	51	50	51	53	52	50	50	50	50.8
延利用者数	588	618	617	614	578	531	642	614	563	552	542	607	588.8
平均作業工賃	12,044	12,323	12,605	12,624	15,832	11,399	13,692	12,872	17,514	11,957	11,983	14,149	13,209

平成29年度実績

登録者平均利用率 48.55%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
開所日数	26	27	26	26	25	26	27	26	25	24	24	26	25.7
登録者数	47	48	49	49	51	50	49	49	50	50	49	50	49.3
延利用者数	559	586	660	630	604	658	661	634	630	606	557	596	615.1
平均作業工賃	11,183	11,316	12,059	12,914	15,942	12,259	13,454	12,489	18,782	12,279	12,205	14,349	13,134

※ 登録者平均利用率=延利用者数÷(登録者数×開所日数)

2 作業内容

施設内作業

自動車部品の下加工・選別・シール貼り/化粧箱組立、セット作業、
検品、段ボール組立、小型家電リサイクル解体

施設外就労

出向先の施設清掃/倉庫内での蓄冷材洗浄、カタログ仕分け等

自主事業

オリジナルカレンダー・絵葉書・手芸品等の販売・リサイクル品販売など

3 その他の活動

就労支援活動

SST (社会生活技能訓練)、一般企業に就労実績 3名 (29年度 3名)

実習生受入

東海大学健康科学部看護学科・社会福祉学科、田園調布学園大学・子ども未来学部子ども未来学科・人間福祉学部社会福祉学科

4 行事

- 4月 13日 東海大学健康科学部看護学科体験発表(東海大学伊勢原キャンパス)
- 22日 西湘地域統一メーカーバザー (平塚市総合運動公園)
- 5月 15日 日帰り旅行 (静岡県日本平方面)
- 17日 スポーツ交流会 (秦野・伊勢原地区 秦野市総合体育館)
- 6月 19日 みどり園衣類訪問販売
- 7月 6日 平塚七夕見物
- 7日 ほっぷすてっぷガレージセール (サンライフ鶴巻)
- 8月 1日 蕎麦打ち体験 (食堂)
- 18日 みどり園納涼祭
- 24日 わいわいマーケット映画会 (伊勢原市民文化会館)
- 28日 暑気払い (すたみな太郎)
- 9月 14日 神奈川県精神障がい者スポーツ大会卓球競技会
- 19日 バーベキュー大会 (県精連秦野足柄上地区 表丹沢野外活動センター)
- 22日 伊勢原市障害者スポーツ大会 (伊勢原市体育館)
- 10月 12日 県精連ふれあいソフトボール大会
- 13・14日 道灌祭(つくし敷地内)
- 27日 みくるべ病院祭
- 30日 精神保健福祉ボランティア基礎講座 (当事者体験発表等 シティプラザ)
- 11月 17日 ハートメッセージ (秦野市文化会館)
- 20日 日帰り旅行 (油壺マリンパーク)
- 12月 8日 ふれあい福祉まつり (すこやか園)
- 4日 「障害者週間」街頭啓発キャンペーン
- 11日 みどり園衣類訪問販売
- 10日 宮ヶ瀬ダムツリー見学
- 1月 20日 精神障がい者事業所連絡会主催合同新年交流会 (シティプラザ)
- 22日 企業見学 (就労支援部会)
- 2月 13日 梅見会 (別所梅林)
- 15日 秦野足柄上地区ブロック交流会 (ボウリング大会)
- 23日 おおやまみち梅まつり販売会

※ その他、操体法、絵手紙教室、運動プログラム、街頭募金、初詣など

5 防災

日 時	訓練種別	訓練状況
9月25日	避難訓練(地震想定)	混乱なくスムーズに避難できた。
3月8日	避難訓練(火災想定・消火訓練)	混乱なくスムーズに避難できた。

平成30年度の課題に対する自己評価

- 1 施設内作業として受注している作業の種類や量が増加しているため、作業状況の見える化を行い、業務効率化や生産性向上を図る。
⇒ 施設内の整理整頓や、商品がわかりやすいように札をつけるようにした。また、パソコンに作業管理表を入力し作業の進捗が見える化し、職員で情報共有したことで、作業効率を上げることができた。しかし、目標としていた作業収入額を達成できなかったため、次年度は職員の共通認識を更に高め、業務効率化や生産性向上を図りたい。
- 2 スーパービジョン体制(「支持的機能」「教育的機能」「管理的機能」)を整えることをめざす。
⇒ 職員全員を対象にスーパービジョン基礎研修を実施し、職務表3級以上はスーパーバイザー研修を受講し、職員全員がスーパービジョン体制を整える意義を理解しつつある。次年度も、更に研修を重ねてスーパービジョン体制を整えていきたい。
- 3 利用者の健康面に留意し、平成30年度から隔月で運動プログラムを取り入れ、利用者のニーズに応じた運動プログラムの体制を整えることをめざす。
⇒ 隔月で運動プログラムを取り入れ、ソフトバレー、卓球、フットサルを実施した。利用人数が少ないときもあったが、利用者が好きな運動を選択し、楽しんで参加することができ、心身の健康増進を図ることができた。次年度も引き続き利用者のニーズに応じた運動を取り入れ、心身の健康増進を図りたい。
- 4 就労支援体制、就労定着支援体制の強化を図る。
⇒ 平成30年度も4名の利用者が一般企業就労へ、1名が就労継続支援A型へステップアップすることができ、企業の担当者や関係機関と連携して、就労定着支援を強化することができた。引き続き就労支援体制、定着支援体制の強化に努めていく。また、一般企業に就労し、つくしを卒業する利用者が多い中、見学希望者が減っており、相談支援事業所等を利用している直近層(支援を受けたい)が頭打ちの状況になっていると分析している。次年度は、見込み層(働きたい)と潜在層(知らない)につくしを認知してもらうための対策(リタリコ仕事ナビサイト掲載・ホームページリニューアル)を講じていきたい。
- 5 つくし3事業の組織間の連携と協力強化を図る。
⇒ つくし相談室との情報交換・情報共有により、就労支援を含めて連携することができた。アトリエヴェルデとの作業連携においては、新規に企業から受注相談があった際の情報共有やつくし職員とアトリエヴェルデ利用者が就労面接の練習を行うなどの交流も図ることができた。作業だけではなく、職員と利用者の交流を図るなど、互いの強みを活かせるように連携を更に強化していく。

Ⅷ アトリエ ヴェルデ 就労継続支援B型事業所

定員 20名 所在地 伊勢原市高森1422-7

1 利用者数（月別の開所日数、1日平均利用者数）

平成30年度実績													登録者平均利用率	86.06%
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	22.4	
登録者数	26	26	25	25	25	25	25	26	26	26	26	26	25.6	
延利用者数	468	512	497	507	476	468	494	516	506	502	458	518	493.5	
平均作業工賃	13,737	14,699	14,213	15,106	14,217	14,222	14,780	15,780	14,558	14,907	14,175	15,501	14,660	

平成29年度実績													登録者平均利用率	86.78%
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	
開所日数	22	22	22	23	22	22	23	22	21	21	20	23	21.9	
登録者数	21	21	21	20	20	20	21	21	19	19	22	22	20.6	
延利用者数	367	370	383	413	402	402	424	418	373	342	375	429	391.5	
平均作業工賃	13,579	14,888	14,852	17,690	16,940	17,032	16,938	16,966	17,077	15,547	15,395	17,260	16,088	

※ 登録者平均利用率＝延利用者数÷（登録者数×開所日数）

2 作業内容

施設内作業 クリーニング作業、ボールペン組み立て、化粧箱組立、ダンボール組立

3 その他の活動

実習生受入 伊勢原養護学校実習生受入
七沢学園実習生受入
※伊勢原養護学校教員実習受入

4 行事

4月 5日(木)	お花見
4月 7日(土)	保護者会
5月 12日(土)	ふれあいフェスティバル
6月 7日(木)	日帰り旅行
7月 12日(木)	暑気払い
9月 13日(木)	防災訓練
9月 22日(土)	伊勢原市障害者スポーツ大会
10月 4日(木)～10月 5日(金)	一泊旅行(浅草、木更津方面)
10月 13日(土)	保護者会
12月 13日(木)	忘年会
2月 14日(木)	防災訓練

5 防災

日 時	訓練種別	訓練状況
9月12日	図上訓練	建物の図面上での避難方向、経路の確認。
2月13日	避難訓練 (火災想定)	混乱なくスムーズに避難できた。

平成30年度の課題に対する自己評価

- 1 利用者の増加に伴う受け入れ体制の充実と工賃の向上を図る。
⇒ 新しい作業の受注は出来なかったが、安定してきた施設外就労の作業収入によって利用者工賃の支払も順調に行う事が出来た。今後は施設内作業の充実と施設内作業の工賃の向上をめざして受注企業を開拓して行きたい。

- 2 利用者の就労支援と就労後の定着に関する支援を強化する。
⇒ 10月の障害者就職面接会で1名の利用者が、平成31年4月からの富士ゼロックスへの就職が内定したので、今後は企業側と連絡を取りながら就労後の定着に向けて支援して行きたい。

- 3 安定した運営を図る。
⇒ 平成30年度の就労人数は1日平均22名程度で、今後も定員を超えた就労人数で推移していくと考えており、推移を見ながら2～3年後に定員増を検討したい。

- 4 「つくし」との連携協力強化を図る。
⇒ 新たに開始した施設外就労と施設内作業の支援により、「つくし」との職員の交流が出来なかったが、今年度は連携と協力強化を図っていく。

Ⅸ つくし相談室

相談支援事業

1 開所日数

269日（H29：268日） 1日平均相談件数 26.3件（H29：26.9件）

2 相談実績

（1）相談実人数（障害者手帳の区分）

	身体障害	重度心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	総数
30年度	15	0	87	128	2	0	1	231
29年度	16	0	75	140	2	0	2	235

（2）相談登録者数

	身体障害	重度心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	総数
30年度	16	0	133	151	3	4	1	305
29年度	16	0	132	146	3	4	0	301

（3）支援方法

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	総数
30年度	656	781	153	2,799	4	28	2,661	7,082
29年度	573	803	140	3,576	4	32	2,084	7,212

主な支援内容

- ・福祉サービスの利用に関する支援（サービス等利用計画） 4,334 件
- ・健康医療に関する支援 4,118 件
- ・家族関係・人間関係に関する支援 2,512 件
- ・就労に関する支援 864 件
- ・その他 3,951 件

3 相談実績の分析とその対応

（1）平成30年度につくし相談室の「基本方針」「支援内容」を定義した。

（2）平成30年度は相談実人数、支援方法は減少した。新規、更新利用者とも福祉サービスの利用調整などひとり一人に時間をかけて、より丁寧な支援ができたと認識している。

また「つくし相談室のあり方」に基づき、現在の支援の状況や職員の負担感を精査・分析をし、業務の改善点を協議してきた。

また、各種福祉制度の狭間で生活に困難をきたしている支援を要する方に対しては、専門的な援助知識・相談技術を活用して迅速にきめ細やかな援助を行う

「かながわライフサポート事業」を引き続き行った。

※「つくし相談室のあり方」…登録利用者の件数、支援内容を分析し、定期的な支援の見直しを行うなど職員の業務の負担感を減らすよう対策し、適正な支援を行う方向性を示したつくし相談室の業務方針。

平成30年度の課題に対する自己評価

- 1 サービス等利用計画作成に伴う計画相談及び一般相談への対応
「つくし相談室のあり方」を方針として、適切かつ丁寧な支援を行っていく。
⇒ 利用者及び家族に対し、きめこまやかでかつ丁寧な支援を行うことができた。
「つくし相談室のあり方」に基づき、職員の業務の負担度を客観的に評価できるように数値化したデータを作成し、職員会議で定期的にデータの精査を行い、改善点などを協議した。
また、つくし相談室の支援の方針を明確にするため、「基本方針」「支援内容」を新たに定義した。
- 2 関係機関との連携
関係機関との綿密な連携を基本として、相談員がケースを抱え込むことなく「役割分担」を明確にして支援を行う。
⇒ 関係機関と日頃から情報共有し、利用者の支援を行ってきた。また必要に応じて支援会議を行い、支援内容に対しての役割分担や今後の方向性などを議論し、利用者の意向を踏まえた支援ができたと考えている。
- 3 生計困難者に対する相談支援事業「かながわライフサポート事業」について、引き続き円滑な運営に努める。
⇒ (福)神奈川県社会福祉協議会のホームページに「かながわライフサポート事業」の指定施設として情報提供を行っているが、平成30年度は相談のみ数件あっただけで、支援には至らなかった。また、昨年度に支援した利用者に対しては、関係機関と連携し、家計の見直し支援を引き続き行っている。

X 施設間連携室

1 設置場所

伊勢原市粟窪605-1

2 事業内容

マイクロバスによる利用者の送迎・各施設への貸し出し調整等

3 実績報告

年月日	件名	貸出物品	貸出先
30. 4. 20	プラネタリウム見学	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 5. 7	さつま芋苗植え (みどり園)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 5. 7	さつま芋苗植え (みどり園)	日産マイクロバス	本厚木ふたば保育園
30. 5. 12	ふれあいフェスティバル	三菱マイクロバス	アトリエ ヴェルデ
30. 5. 12	職員研修	キャラバン	本厚木ふたば保育園
30. 5. 16	スポーツ交流会 (バレーボール)	三菱マイクロバス	つくし
30. 5. 18	遠足 (平塚運動公園)	日産マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 5. 18	遠足 (海老名運動公園)	三菱マイクロバス	本厚木ふたば保育園
30. 5. 24	遠足 (わんぱくランド)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 5. 29	地域交流会 (湘南けやきの郷)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 6. 1	遠足 (ぼうさいの丘公園)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 6. 12	利用者健康診断	三菱マイクロバス	つくし
30. 6. 12	利用者健康診断	日産マイクロバス	アトリエ ヴェルデ
30. 6. 13	みどり園へさつま芋苗確認	三菱マイクロバス	本厚木ふたば保育園
30. 6. 14	田植え (加藤花園)	日産マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
29. 6. 14	日帰りレク (東京スカイツリー)	三菱マイクロバス	アトリエ ヴェルデ
30. 6. 26	地域交流会 (湘南けやきの郷)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 7. 12	暑気払い	三菱マイクロバス	アトリエ ヴェルデ
30. 8. 28	暑気払い	三菱マイクロバス	つくし
30. 9. 19	県精連バーベキュー	三菱マイクロバス	つくし
30. 10. 12	運動会	軽トラック	本厚木ふたば保育園
30. 10. 15	稲刈り (加藤花園)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 10. 19	お楽しみ会 (宮ヶ瀬ミーヤ館)	三菱マイクロバス	本厚木ふたば保育園
30. 10. 19	遠足 (新江ノ島水族館)	日産マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 10. 25	さつま芋掘り (みどり園)	三菱マイクロバス 日産マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 10. 26	遠足 (里山公園)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 10. 26	さつま芋掘り (みどり園)	日産マイクロバス	本厚木ふたば保育園
30. 11. 1	みかん狩り	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 11. 2	遠足 (ズーラシア)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 11. 8	消防署見学	三菱マイクロバス 日産マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 11. 9	消防署見学	三菱マイクロバス 日産マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 11. 12	地域交流会 (高森荘)	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
30. 11. 16	遠足 (相模原麻溝公園)	三菱マイクロバス 日産マイクロバス	本厚木ふたば保育園
30. 11. 24	リズム研修会	レジアスエース	本厚木ふたば保育園
31. 1. 29	石田小交流会	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
31. 1. 31	防災センター見学	三菱マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
31. 3. 8	遠足 (八景島シーパラダイス)	日産マイクロバス	伊勢原ふたば保育園
31. 3. 8	遠足 (八景島シーパラダイス)	三菱マイクロバス	本厚木ふたば保育園
31. 3. 15	お別れ遠足 (相模川ふれあい科学館)	三菱マイクロバス	本厚木ふたば保育園

マイクロバス送迎の調整については、各事業所がきちんと予定表を作成したことにより、スムーズに対応することができた。

連携室専従職員を配置し、各事業所の予定に沿ったマイクロバス運転等に従事することができた。また、各施設の小修繕等の応援体制も確立することができた。

他事業所の職員がマイクロバスの運転免許を取得し、運転に従事するようになったので、さらにマイクロバス運行計画も組みやすくなった。

平成30年度の課題に対する自己評価

- 1 施設間でのマイクロバス送迎や貸出の調整、小課題の問題解決に向けた取り組み、みどり園花壇農園での保育園さつま芋掘りの手伝い等を中心に行っていく。
⇒ マイクロバス送迎や貸出の調整については、各事業所の予定表を作成しスムーズに対応することができた。小課題の問題解決に向けた取り組み、みどり園花壇農園での保育園児によるさつま芋掘りの手伝い等は予定とおりに行えたが、雨不足の為、さつま芋の発育が悪く、例年並みの収穫量を確保することが出来なかった。
- 2 マイクロバスの利用状況を見た中で、ボランティア運転手の開拓を行っていく。
⇒ 他事業所の職員がマイクロバスの免許を取得したことにより、運行計画が組みやすくなった。